



市民医療フォーラム2016（会長挨拶）

会長 松家 治道

本日は、土曜日の午後という大変貴重なお時間に、午後3時から札幌ドームで日本ハムファイターズの試合があり、向かいではオータムフェストが開催されている中、私どもの会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

この「市民医療フォーラム」は平成16年に始まって以来、毎年回を重ね今年で13回目を迎える恒例のイベントとなりました。

今年度は「笑顔の生活～毎日生き生きと過ごせる秘訣」をテーマに、第1部ではタレントとしてテレビや舞台などでご活躍され、剣道五段の腕前でも知られている渡辺正行さんをお迎えし、このあと「基調講演」をお願いしております。「健康だからできる～笑顔の毎日」と題して、過去にご自身が病気を患いご苦労された経験や、それを乗り越えられた秘訣など笑いとユーモアを交えてお話いただけるものと大変楽しみにしております。

また、第2部では「がん予防」をテーマに、五輪橋マタニティクリニックの丸山淳士先生、札幌乳腺外科クリニックの岡崎 亮先生、NTT東日本札幌病院の伊藤直樹先生、3名の専門医による「健康トーク&パネルディスカッション」を行います。渡辺さんの基調講演、そして専門医の先生方のお話を聞いて、少しでも明日からの生活に役立てていただければ幸いです。

さて、「地域包括ケアシステム」という言葉は皆さんご存知でしょうか。団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、介護が必要になった高齢者も住み慣れた自宅や地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるように「医療・介護・予防・生活支援・住まい」の5つのサービスを一体的に提供する体制を構築するというものです。その中心となるのが「在宅医療」です。高齢化が急速に進む中、札幌市医師会では「地域包括ケアシステムの構築」に向



松家 治道 会長

け、医療分野を担う立場から、在宅医療の推進と介護との連携体制や歯科医・看護師・薬剤師など多職種の方との連携の推進など、これまでの「治す医療」から温かみのある「癒やし支える医療」への体制整備に向け、取り組んでいるところでございます。また、市民の皆様がそれぞれの地域において健康で安心・安全に暮らせることができるように講演会やシンポジウムを通じて在宅医療の普及啓発活動を積極的に行っております。

今、医療をめぐる環境は非常に厳しい状況にあり、様々な問題をかかえております。このような社会情勢においても、札幌市医師会は“患者さんの負担の少ない医療・介護制度”を目指し、“いつでも、どこでも、だれもが”安心して受けられる日本の医療制度を守るため、皆様と共に行動してまいりますと考えておりますので、是非、医師会活動にご理解を賜りますようお願い申し上げます。

この市民医療フォーラムでは「札幌聴力障害者協会」様に手話を、「ふきのとう」様に要約筆記をご協力いただいております。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

それでは、皆様どうぞ最後までごゆっくりとお楽しみください。本日は、ご参加いただき、誠にありがとうございました。

「市民医療フォーラム2016」報告

地域保健部長 枝村 正人

平成28年9月24日（土）午後1時から、わくわくホリデーホール（札幌市民ホール）にて「市民医療フォーラム 2016」を開催したので、その概要を報告します。

このフォーラムは、札幌市医師会が行っている市民への健康教育活動の一環として、札幌市の共催を受け、平成16年度から毎年開催し、今年で13回目になります。また、耳の不自由な方のために、札幌聴力障害者協会の方にステージ上での手話による同時通訳と、「ふきのとう」による要約筆記のスクリーン拡大表示を、両団体のご協力を得て行っています。ここ数年は会場がほぼ満席になっていましたが、残念なことに本年度は653名の参加にとどまり、ゆったりと聞くことはできましたが、少し寂しい開催となりました。

司会進行を今年もフリーアナウンサーの橋本登代子さんにお願ひし、フォーラムが開始されました。開会にあたり、札幌市医師会を代表して松家治道会長が、札幌市を代表して板垣昭彦副市長が挨拶されました。今回のメインテーマは「笑顔の生活～毎日生き生きと過ごせる秘訣～」で、第1部の基調講演はタレントの渡辺正行さんに、第2部の健康トーク&パネルディスカッションは注目度が高いがんとして子宮頸がん乳がん、前立腺がんを取り上げ、3名の先生方に登壇いただきました。

第1部、渡辺正行さんの表題は「健康だからできる～笑顔の毎日」でした。渡辺正行さんといえば千葉県出身で明治大学在学中にラサール石井さん、小宮孝泰さんと「コント赤信号」を結成、暴走族コントで人気を博し、そのコントでの役であった「リーダー」が愛称として定着しています。私のような55歳過ぎの者にはコー



第1部基調講演：渡辺 正行 氏

ラの一気に飲みで有名ですが、学生時代から続けている剣道は五段、またお笑い芸人の中でも屈指のプレイボーイとして週刊誌を賑やかしています。

講演はテレビで共演する方々のおもしろエピソードから始まりました。なかでも浅田美代子さん。ゴルフ帰りに肩をぐるぐる回しながら「今日は疲れたわ、足が」。さらに浅田さんの所属する事務所の社長さんのお通夜に駆けつけた第一声が「二次会どこ?」。テレビで見たままの方なんですね。その後、千葉の片田舎で育った渡辺さんがどのように今の地位を築くようになったのか、その半生が振り返られました。

最初のターニングポイントは明治大学入学。中学・高校と剣道に明け暮れたため、3年生夏休みの旺文社模試で大学入試に必要な60点に遠く及ばない16点、これはまずいと友達に参考書を聞きながら、2ヶ月の短期集中勉強で見事合格。さらに落語が好きというわけではなかったが勧誘してくれる先輩達に魅力を感じ落語研究会に入部。当時学生だった立川志の輔さんの落語に感激、それから落語を勉強し、同会に受け継がれた名跡である「六代目 紫紺亭志い朝」を当時の五代目 立川志の輔さんから襲名。ち



第2部健康トーク：丸山淳士先生

なみに四代目は三宅裕司さんである。しばらくして俳優を志すようになり、劇団テアトル・エコー養成所に入所、大学卒業とともに劇団研究生に就職。しかし、俳優としての仕事はなく、ラーメン屋でのアルバイトで生活していたという。そこで腐らずに自分を磨くため、連日、アルバイトが終わってからジャズダンスやクラシックバレエ、日本舞踊などのレッスンを続け、さらに俳優の勉強をするため、小さい場所でもできるコントを後のコント赤信号となる小宮孝泰さんやラサール石井さんと学園祭やスーパーなどで始めるようになると、これが大受け。渋谷のストリップ劇場にスカウトされ、師匠となる杉兵助さんと出会います。そのつながりで花王名人劇場に出演、その後は仕事が少しずつ増え、現在に至っているとのことでした。半生記の後は趣味で続けている剣道の話です。「SMAP×SMAP」という番組で木村拓哉さんと勝負をして勝ってしまい、プロデューサーに怒られたり、最近では「炎の体育会TV」という番組で女性剣道家と勝負をして負けたとか、一般の市民大会に出場して優勝したとか、まとめて文章にしまえば淡々としてしまうのですが、楽しく聞かせていただきました。

第2部は身近ながんとして最近注目される子宮頸がんと乳がん、前立腺がんについて、それぞれ専門の先生にご講演をお願いし、講演終了後に司会の橋本登代子さんをコーディネーターとして、3人の先生方でパネルディスカッションを行いました。

始めは、健康セミナーといえばこの方、五輪橋マタニティクリニックの丸山淳士先生が「子



第2部健康トーク：岡崎 亮先生

宮頸がんは予防の時代」と題してお話しされました。子宮頸がんは増加しており、その原因にウイルス感染が関連していることを説明されました。その対策として2年に1回の「がん検診」と子宮頸部のヒトパピローマウイルス（HPV）検査が適切で、そうすれば副反応が問題になっているワクチンは不要とのことでした。

続いて、札幌乳腺外科クリニックの岡崎亮先生が「乳がんの早期診断法と治療について」と題してお話しされました。札幌市医師会が開催する年1回のマンモグラフィ読影医師研修会でも講師をお願いしています。早期発見には現在行われているマンモグラフィ検診に加えて、超音波検査を併用すると診断率が向上すること。また、どうしても乳房を温存できない場合には新しい乳房再建術が開発されていることを説明していただきました。

最後に、NTT東日本札幌病院の伊藤直樹先生が「急増する前立腺がん～なぜ増えているのか？どう見つけるのか？どう治すのか？」と題してお話しされました。前立腺がんは死亡者数は少ないものの、罹患者は著増しています。その原因として高齢化や食生活の欧米化、前立腺特異抗原（PSA）の発見が上げられ、最新の診断法や治療法を分かり易くお話しくださいました。

講演が白熱し、時間が短くなってしまいましたが、仕上げのパネルディスカッションが行われました。丸山先生から健康寿命を延ばすには従来からおっしゃっている「少し早めに歩く」、「よく噛んで食べる」、「作り笑顔でいいか



第2部健康トーク：伊藤直樹先生

ら笑う」をまとめて「てくてく、かみかみ、いにこ」の標語に加え、今年は「どきどき、わくわく」が追加されました。また、趣味はありますかとの質問に岡崎先生は「食う、寝るです」とお答えになり、そういえば会食をご一緒した時においしそうに黙々とお食べになっておられました。伊藤先生の趣味はランニングで、ダイエットのために始めたのにたのしくなり、今ではフルマラソンを完走するまでになったとのこと。

市民医療フォーラムでは参加された市民の方々にアンケート調査を行っており、487名（参加者653名、回答率74.6%）の方から回答を頂きました。参加者は女性が多く（63.4%）、年代別では60歳台と70歳台で66.9%を占めていました。また、32.9%の方が初参加で、開催を知った手段（複数回答あり）は新聞が49.9%と断然多く、高齢者は新聞から情報を得ていることが推測されました。内容については「大変良い」が44.6%、「良い」が39.6%、併せて84.2%の方で「良い」以上でした。基調講演をされた渡辺さんのみならず、第2部の健康ト



第2部パネルディスカッション

クを担当して下さった先生方の評判も良く、パネルディスカッションをもっと長くして欲しいとのご意見もいただきました。札幌市医師会の活動では会員の皆様方の多大な協力により行われている「夜間急病センター」や「土曜・休日救急医療体制」、「各種検診」、「予防接種」、「健康教育活動」が半数以上の方に認知されておりました。窓口自己負担については60歳台以下では「高い」が、70歳台以上では「妥当」がほぼ半数以上を占めていました。この傾向はここ数年同じであり、70歳以上での「妥当」という答えが健康を守るための自己負担額として妥当なのか、それとも若い層より自己負担割合が低いから妥当なのか、今後の検討が必要と考えられます。

会場の反応やアンケート結果が好評だったにもかかわらず参加者が少なかったので、次回は内容の充実は当然のこととして、より盛大な会になるよう周知の方法や参加したいと思える工夫をできればと考えておりますので、皆様のご協力をよろしく願います。